



令和4年度

# 地域の寺子屋推進フォーラム

## 報告書

日時

令和4年12月4日(日) 10:00 ~ 16:00  
(パネル展/10:00~16:00、寺子屋体験活動/10:00~13:00  
寺子屋川柳表彰式/14:00~14:30、トークセッション/14:30~15:30)

場所

川崎アゼリア(サンライト広場、南広場、東広場)

主催

川崎市教育委員会

協賛

川崎アゼリア株式会社

川崎市教育委員会では平成26年度から「地域の寺子屋事業」を実施しており、すべての市立小中学校での開講を目指しています。

今後の新たな寺子屋立ち上げの機運醸成を図るとともに、より多くの皆様に地域の寺子屋を知っていただくために、昨年度と同様、川崎アゼリアのオープンスペースを会場として、「地域の寺子屋推進フォーラム」を開催しました。

今年度は、寺子屋活動についてのパネル展示や体験コーナーを設けるとともに、後半には寺子屋に関わっている市民や学校関係者と市長が寺子屋の未来について意見交換を行いました。当日の内容をまとめた報告書を作成いたしましたので、ぜひご覧ください。



Colors, Future!  
いろいろって、未来。  
川崎市



小学校の寺子屋で行っている学習支援後の「お楽しみタイム」が体験できるブースを用意しました。

会場まわりを通行している子どもだけでなく、大人も「何をやっているのかな？」という興味を示し、立ち寄っているいろいろな遊びを体験しました。4つのブースは、実際に寺子屋を運営している方々に担当していただき、普通の寺子屋と同じようにあたたかな目線や言葉かけで参加者に接していた姿が印象的でした。

福田市長も4つすべてのブースを体験しながら、日頃の寺子屋事業への御協力に感謝の言葉を述べていました。福田市長がけん玉で見事成功したときは会場内から歓声があがりました。

※ 参加者合計 237名

### 寺子屋東小倉 (東小倉小)

お手玉・けん玉体験

寺子屋のスタッフがわかりやすく技の紹介やうまくできるコツを伝授し、来場者からは「できた！」の音が聞かれました。



### 寺子屋やまぶき (南加瀬小)

クリスマスリース作り

季節に合わせた折り紙工作を親子で楽しそうに体験している様子が見られました。



### 寺子屋しもぬまべ (下沼部小)

磁石めいろ

磁石で動かしていく迷路の楽しさを子どもだけでなく大人も体験しました。家でもできるように迷路シートのプレゼントも喜ばれていました。



### 川崎小地域の寺子屋 (川崎小)

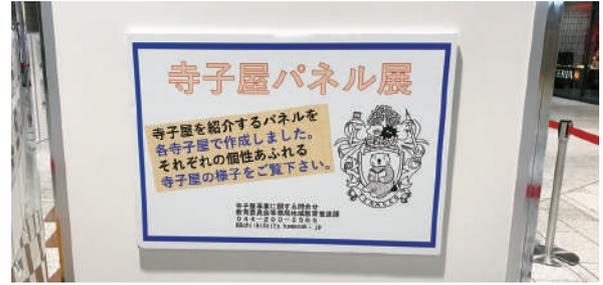
ストローとんぼ工作

家にある材料(ストローと牛乳パック)をつかったの工作をしました。できあがったストローとんぼが高くとぶと歓声があがりました。



現在開講している各寺子屋の学習支援や体験活動の様子をわかりやすく写真や文章でまとめていただいたパネルを展示し、寺子屋関係者や会場付近を通行している市民の方などに御覧頂きました。

今後、各市民館などでもパネル展を行い、広く市民に寺子屋事業について周知していく予定です。



(東広場)

(南広場)





トークセッションに先立ち、寺子屋川柳表彰式を行いました。寺子屋川柳は、事前に寺子屋に参加している児童生徒や、寺子屋コーディネーター、寺子屋先生に作成していただきました。

児童生徒の部 831 点、大人の部 203 点の応募があり、その中から 12 点の作品を入賞作品として表彰しました。

## 01 〈 児童生徒の部 〉 表彰式

### 入賞者の言葉 寺子屋つっちー 浅野 碧 さん(土橋小学校4年)

賞を頂き、ありがとうございます。寺子屋では勉強を教えてもらったりゲームをしたりしていて、とても楽しいです。これからも寺子屋を通して、地域の人と仲良くしていきたいです。



### 入賞者の言葉 寺子屋みなみかぜ 岩崎 斗夢 さん(南大師中学校2年)



まず初めに、このような賞を頂き、誠にありがとうございます。私の川柳にもあるとおり、部活で疲れた後でも勉強を頑張ろうって思える環境が寺子屋なので、今後も寺子屋で勉強を頑張っていきたいし、まだ寺子屋に来てない人にも寺子屋に来てほしいです。今日は誠にありがとうございました。

### 川崎市教育長 小田嶋 満 総評

どれも素晴らしい作品で、選ばれていない作品の中にも本当に寺子屋が楽しくて、寺子屋でたくさんのお友達や地域の人との関わりができたっていいと感じさせてくれるいい作品がありました。17 音の川柳で、気持ちが分かりやすく伝わってきたなと思います。岩崎さんの川柳にある「オアシス」。子どもたちにとって、ちょっと立ち止まって元気をもらってまた次に向かう、そんなオアシスに寺子屋がなっているのかなと思います。これからも皆さん、ぜひお友達たちにも寺子屋の素晴らしさを伝えていってくださるとうれしく思います。



## 02 〈 大人の部 〉 表彰式

### 入賞者の言葉 寺子屋おおがやと 寺子屋先生 渡辺 孝映 さん



いやあ、幾つになっても賞状はありがたいものですね。私の作品は、寺子屋おおがやとの普段のあり方をそのまま表現したものですので、私個人がというよりは、寺子屋おおがやとが評価されたものだ、そのように受け止めて大変喜んでおります。今後、講師の仲間たちと一緒に寺子屋事業を通じて、子どもたちと触れ合いながら、地域で子どもたちを支える、そういった形で頑張っていきたいと思っております。

### 入賞者の言葉 寺子屋きょうまち コーディネーター 大橋 弘一 さん

賞をもらうというのは、考えてみますと、小学校の時、今から 70 年ぐらい前に皆勤賞をもらった以来じゃないかと思っております。

私は、寺子屋は学習塾と異なると考えておりました、活動を通じて子どもたちの居場所づくりと、子どもたちが勉強を楽しく好きになるように、一人一人が理解できるまで丁寧にかつ楽しくできるような心掛けております。

この寺子屋という川崎モデル、それが川崎市にとどまることなく拡大していけば素晴らしいことかなと思っております。これからも寺子屋の活動に従事していこうと思っておりますので、皆さまにおかれましては、引き続き御支援御鞭撻(べんたつ)のほど、よろしくお願い申し上げます。



## 川崎市長 福田 紀彦 総評

私は、寺子屋先生が川崎市にとって、地域にとって、かけがえのない存在だと思っています。その方々が、寺子屋に対して、子どもたちに対して、こういう視点で見えていたのかということを見事に川柳の17文字で表していただいたと思っていますし、世代が違って友達になれる空間、お互いに学び合う空間だとか、本当に優しいまなざしということが見事に表現されてるなと感じました。

こういう方たちが地域を支え、地域の子どもたちを見ていただいているんだなということに、改めて心から感謝をする川柳になりました。



## 03 寺子屋川柳入賞作品

### 児童生徒の部

寺子屋の おかげで友だちつくれたよ 栗木台小学校二年 浅岡 咲希	寺子屋の ごほうびシールをやんじやう 稗原小学校三年 宮川 愛	寺子屋で こつそりおりがみふつふつ 玉川小学校三年 吉村 ひなた	寺子屋で 地いきの人と友達に 土橋小学校四年 浅野 碧	広がった 人の関わり 寺子屋で 稲田小学校六年 坂本 孝太郎	部活後の オアシスになる 寺子屋が 南大師中学校二年 岩崎 斗夢
--	---------------------------------------	--	-----------------------------------	--------------------------------------	--

### 大人の部

分かるまで ゆつくりでいいよ 寺子屋は 寺子屋おおがやと 渡辺 孝映	赤丸を 付けて付けてとねだる顔 寺子屋宮崎小 金澤 修	独り身の 我にも孫と学べる時間 寺子屋・東小倉 中屋 真理	寺子屋の 子らに教わるタブレット 寺子屋富士見つ子 建部 克史	寺子屋は 世代を繋ぐかけ橋に 寺子屋あさお 曾我部 幸治	寺子屋で 書き方聞かれ頭かく 寺子屋きようまち 大橋 弘一
--	-----------------------------------	-------------------------------------	---------------------------------------	------------------------------------	-------------------------------------

# 01 現在の寺子屋の現状を聞く

## ■ 地域の寺子屋事業の概要とトークテーマ



教育委員会事務局  
地域教育推進課長 二瓶 裕児

まず、寺子屋事業を振り返りますと、平成 26 年度に 3 つの目標を掲げてスタートした事業になります。

1 つ目は、地域ぐるみで子どもたちへの学習や体験をサポートする仕組みづくり。2 つ目は、地域のさまざまな方の知識と経験を生かした、多くの世代で学ぶ生涯学習の拠点づくり。3 つ目は、子どもたちに豊かな学びや体験の機会を提供することによる学ぶ意欲の向上や、豊かな人間性の形成。これらの 3 つの目標に向けまして、全ての市立学校での寺子屋開講を目指し、事業を進めているところでございます。

寺子屋事業の主な内容でございますが、平日の放課後、子どもたちの宿題やプリント学習を手助けしながら、時には子どもたちから学びを得ることもある学習支援。また、土曜日などに、学校だけではなくて地域の施設なども活用しながら行うスポーツ、科学、工作といった多様な体験活動から構成されております。寺子屋ごとに関係者の豊富な経験や知識、また地域性に応じた特色ある内容となっており、子どもたちにとっても大変貴重な経験となっております。寺子屋に関わってくださる皆さまにおかれましては、地域の方々、町内会や PTA、また教員 OB など地域ぐるみで子どもたちの成長を支えていただいております。改めまして皆さま方に、この場を借りて心からお礼申し上げます。

さて、本日は既に寺子屋を開講し運営されている方、今後の開講に興味を持ってくださっている方、また学校現場の方々に御参加いただいております。寺子屋事業のさらなる拡充と発展を目指しまして、「みんなで創ろう、地域の寺子屋」をテーマに、本日御参加の皆さまで語り合ってくださいたいと思っております。

### 市長

日曜日の午後という中で、お忙しい中、こういった会に、フォーラムにお集まりをいただいた皆さん、本当にありがとうございます。そして今、アゼリアの向坂社長もいらっしゃいますけども。この場、アゼリアの真ん中で、みんなで子どもたちのことを話そうと、寺子屋について大いに知ってもらって、閉じられた会議室の中でしゃべるんじゃなくて、みんなが通行中に、何やってんだろう、どんな話をしてるんだろうというところでやりたいなということで、この数年間、この場所をお借りしております。ありがとうございます。

さて、二瓶さんからお話あったように、今日は既に開講されている方、それから今年から開講された方、それからまだ開講していないんだけど関心を持っておられる方。あるいは、今日は高校生にも参加をいただいておりますので、今の現状とこれから、そしてもっと未来にというような話を皆さんとさせていただきたいなと思います。

まず今、知らない方もいらっしゃいますので、教育次長から、今の開講状況、川崎市内でどれぐらい寺子屋をやっているのかという話を皆さんにお伝えいただければと思います。

## ■ 寺子屋の開講状況

現在市内では、小学校では 63 校、中学校では 18 校、そしてろう学校 1 校で寺子屋が開講しておりまして、これらを合わせますと 82 校の開講となっております。この数字は市立の小中学校、ろう学校、全部で今 167 校ありますけども、そのうちの半数近くという状況になっております。そしてこの 82 校をもうちょっと地域別に見てみますと、市内では川崎の南部に比べて、北部での開講の割合がちょっとだけ高い状況になっております。また、この 12 月には新たに 2 つの小学校在寺子屋の仲間入りを果たします。従いまして今月末には 84 校に到達する、そうい



教育委員会事務局  
教育次長 池之上 健一

た状況でございます。簡単ではございますけども、これからも地域の皆さん方のお力添えをいただきながら、この寺子屋の事業が拡大していくことを望んでおります。

**市長**      ありがとうございます。この寺子屋事業はみんなで一斉に始めるというよりも、地域の実情に合わせて、ボトムアップで、地域の準備ができたところから始まっていこうという緩やかな形でやっておりますけども、徐々に広がってきたということでもあります。

教育長にお伺いしたいんですけども、寺子屋のアンケートも毎年やっております。どんな傾向が出ているのかということと、教育長から見た寺子屋の現状と課題みたいなものをお話しいただけますでしょうか。

### 寺子屋の様子



川崎市教育長 小田嶋 満

ここに昨年のアンケート結果を持ってきているのですが、このアンケートは昨年から4年目になります。毎年開講数が増えているので回答の数も増えていて、それをまとめた冊子が、こんな1センチ以上もあるような厚さになっています。全体的な傾向は毎年似ているんですが、子どもたちからは非常に肯定的な回答が多くて、少し御紹介しますと、例えば「親や先生以外の大人と話げた」94%、「他のクラスや他の学年の人と話げた」82%、「勉強が好きになった」76%、「学校や家では勉強できないことを教えてもらった」90%、「勉強の分からないところが分かるようになった」76%と。この数字はずっと4年間、ほとんど同じくらいの高い水準となっております。

保護者のほうはといいますと、「勉強が好きになった」という回答が意外に低くて10%前後をずっと推移しています。それと、「勉強が分かるようになった」11%。これは、実際そういうことが親として分かったというよりも、子どもたちのその変化を親としてなかなかつかみ切れないという意識の表れかなと捉えております。

ただし、自由記述でいつも書いてもらっている中の回答が本当に素晴らしくて、子どもたちからは川柳にもあったとおりなんですけど、話をまず聞いてくれる、いろんな話が聞ける、そして褒めてくれるのがうれしい。だから勉強以外の楽しさがあると。子どもたちが学校での自分とは違う自分を表せる、キーワードが「違い」というか、普段と違う場、違う声掛け、違う評価、そんなことがこの4年間のアンケートを通じても見えてきているのかなと思います。そして学びへのモチベーションが、家でやるのではなく、寺子屋でみんなと一緒にやったり教えてもらったりすることで、勉強あるいは宿題を一生懸命やろうっていう気持ちが強くなっている。そういう声が寄せられています。

保護者からは、やはり家と寺子屋では積極性が違うと。家ではなかなかやらないんだけど、寺子屋に行くと積極的に頑張っている、家と違うなっていうようなこととか、子どもが本当に楽しみにしているという声ですとか、やはりさっき言いました教室や学校とは違った中での体験に価値を見いだしている。褒められる、励まされる、認めてくれることのありがたさ、そういったことを子どもたちが家に帰って、家族にお話をよくしてくれると。そしてそのことで家族の会話も増えている。そんな声を頂いております。

寺子屋は順調に数も増えてきていて、小学校はもう過半数を超えていて、もっともこの勢いが続くかなと思いますが、中学校が今年で18校です。それでも当初に比べるとかなり増えてきてますし、今日、南大師中学校の寺子屋先生もお2人来ているんですけど、やはり中学校ならではの工夫をしながら課題もあるかなっていうことで。今日、中学校の先生も見えてるので、その辺の課題感だとか期待感、そんなこともお聞きできるとうれしかなと思ってます。

**市長**      ありがとうございます。今の教育長の発言に、もう既に経験されている方は、「うん、そんな感じ」というような反応だったかなと思います。ありがとうございます。それでは、まずはもう既に開講されてベテランの域に入っているところから少しお話を聞きたいと思います。

## 02 充実した寺子屋の様子を聞く

### ■ 学習支援の登録者が昨年度から大きく増加 / 東小倉小学校 寺子屋



寺子屋コーディネーター 中島 守 さん

東小倉の寺子屋は開講して8年目になります。モットーは、子どもが笑顔で帰ること。ここを一番のモットーにしているんですね。笑顔で帰るためには褒めること、公平に接すること、そして面白くする。この3つをやれば間違いなく子どもは笑顔で帰っているんです。

今年、寺子屋の1年生は100名を超えています。つまり、1学年の7割が寺子屋に来ているんですね。なぜこんなに多いのかっていうのは、やっぱり今言ったようなことをやっているからで、先ほどのアンケートのフィードバックを見てびっくりしたのが、保護者の方が寺子屋に期待していること100%、全員が期待どおりだったこと。この100%の数字は素晴らしいと。そのぐらいに保護者の方は寺子

屋を信頼してるし、子どもたちもそういうことを親に伝える。そう思っています。

受付、ほんと大変です。100人が来るわけですね。5クラスあるのですけども、1年生の担任の先生と一緒に来てくれて、だから学校側の協力がすごく大きいんです。学校の先生方の協力があっとうまくオペレーションできてます。

公平に接すること、褒めること、それと面白くすること。この3つをしっかりとやれば間違いなく寺子屋はどんどん増えていきます。

### ■ PTAや町内会、区役所等とコラボして地域ぐるみで防災教室を開催 西御幸小学校 寺子屋



寺子屋コーディネーター 斎藤 茂 さん

先月、体験活動で地域を巻き込んで防災教室というのを行いました。元々PTAさんのほうから相談があったものですから、そちらの方と一緒に、じゃあPTAさんがやるのであれば地域も一緒に巻き込んでおおうということで、地域と3つの団体と一緒に防災教室を行いました。学校も入っております。土曜参観が終わった後にその防災教室を行って、昨年は300人ぐらいの子どもたちが参加してくれました。

川崎市の消防局の皆さんの御協力を得ながら、最初は楽しく防災関係のことを学んでもらって、入り口は楽しくてもいいのかなと。そこからどんどん深く入り込んでいってもらえれば、より地域の防災の

意識が高まるのではないかと考えておりました。

みんなの顔が見えてくれば、例えば防犯に関しても防災に関してもそうなんです、何か困ったことがあった時にお互いに助け合うことができるのではないかと考えております。

#### 市長

地域の防災訓練とかをやると、決まった方は来られるんだけど、なかなか新規の人たちを巻き込めないという課題っていうのは結構あるんですけど。そういう意味では、寺子屋での土曜日の体験活動を通じて防災活動をやって、それがさらに地域の寺子屋はどんなものかということを知ることになるという、そういうサイクルが回っていると理解しました。非常にいいですね。寺子屋がスタンドアロンで存在するというよ

りも、地域だとか PTA だとか区役所だとか、いろんな人たちとつながってくると、みんなでうまくサイクルが回るって形ですかね。

中島さんのところでは、町内会や PTA とはどのような関わり方ですか。

中島

寺子屋を作ったきっかけが町内会と自治会、それと PTA の三者でつくってますから、地域とのつながりはものすごく強いんですね。そういう地盤が元々あったところにできてますから、さらに強くなってます。

市長

斎藤さんのところはちょっと後から入ってくるという形でしょうか。

斎藤

そうですね。私も町会の役員をやってるもんですから、一緒に巻き込んでやってしまおうということになりました。

市長

これすごく参考になる話ですね。地域や PTA っていうのをしっかり巻き込んでいくということが寺子屋の理解にもつながるし、広がりも出てくると。持続可能な形になってくるという形ですね。ありがとうございます。

## 03 今年度開講した寺子屋から、開講までの流れ、苦労話、やりがいを聞く

### ■ 昨年度のフォーラム参加を契機に開講

#### 小倉小学校 寺子屋

昨年このフォーラムに参加しまして、市長の前で「やります」って宣言した手前、このままやらないで終わると何か恥ずかしいので力が入りまして、校長と教頭にも協力していただきまして、4月開講を目指したんです。ところがコロナでこれはまずいということで、夏頃から再開しました。最初は町会からいろんな運営委員を探そうと思ったんですが、なかなか集まらなくて。ある時、子ども会の会長が元 PTA の会長だったので、このラインを使おうということで事務局長にしたら、途端に先生はじめいろんなスタッフが集まりました。今、もう私は見るだけでいいような段階まで動いております。

今年の11月19日に開講式を小学校の体育館でやったんですが、そのイベントの企画も全部若い人たちにやっていただきました。そのイベント自体は中学生と高校生が仕切ってくれて、紙飛行機の大会をやったり、その前にみんなゲームをやったり、本当に子どもたちが楽しそうに寺子屋を楽しんでいると。体育館を駆けずり回ったり、最高な雰囲気だったように、私としては思っております。

ボランティアの人たちが PTA を通じて知り合っていて、そのスタッフにも入っていただいております。高校生、中学生でもう子どもの心をつかんでますから非常にいい。これは開講式なんでイベント系なんですけど、これから学習支援も毎週水曜日に始めるんですけど、それに対しても、大学生の人が将来先生を目指してるんでやりたいというような、うれしい声も入ってますし、いろんな PTA とかその辺の役員の方々もみんな授業に参加してくれると。私が集めるより全然早いスピードでみんな集まりまして、本当に助かっております。



寺子屋コーディネーター 土倉 護昭さん

### 03 今年度開講した寺子屋から、開講までの流れ、苦労話、やりがいを聞く

市長

ありがとうございます。後で南大師中のことも聞きますけど、先週視察で行ったんです。素晴らしい若い人たちが入って、今の土倉さんの話って、町会でまず人を集めたんだけどなかなか集まらないから、子ども会に声掛けたらまたぐっと入ってきたと。すごいですね。元々、土倉さんのところは地域力が非常に強いところなんですけども、それでもいろんなステーキホルダーを引っ張ってきていい形につながっていただいと。



小倉小学校 木下 孝文 校長

市長がおっしゃったとおり、土倉さんが実行委員長になられまして、事務局長は元 PTA 会長で、今、子ども会の会長ですかね。そこに声を掛けて。学校のボランティアの方にも声を掛けて、すぐ立ち上がるかなと思ったら、コロナ禍でなかなか難しく。ただ、教育委員会事務局の佐藤指導主事にもお手伝いいただいて、さてやるぞとなったらもう 2 カ月ぐらいで一気に立ち上がったということで。やっぱり土倉さんを中心とした地域力っていうのを非常に感じました。

事務局長からは、当日人が集まるか心配だから寺子屋についてビデオを作るから学校の給食の時に流してくれと。今はまだ黙食をやっておりますので、紹介ビデオを流して子どもたちに知らせてそして当日を迎えたということでございます。

また、市長さんから現状と課題についてということでしたが、本校は 1 年生だけで 220 人いますから、その子たちがたくさん来てくれるのはうれしいんですけど、コロナ禍の中で、その子たちをどうやって安全に楽しく活動させるかっていうのはまず課題でございます。それから地域の卒業生、高校生、中学生、一生懸命やってくれます。普段と違う人間関係も素晴らしいなって、そういうふうに思います。ただ裏側で、学校では学級閉鎖等出てますから、その時のコロナの感染防止策のレベルをちょっとそろえていかなきゃなっていうのは、今後の課題です。

一生懸命やって楽しくたくさん触れ合うことができるのはいいんですけど、安全も守らなきゃいけないので、そのあたりの意識はそろえたほうがいいかななんて思ってるところでございました。ただ、1 回目は親も子どももものすごく楽しくできたので、今度は学習も始まってさらに、先ほどからたくさんお話しいただいている居場所づくりとか、普段と違う人間関係ができるといいと思います。

もう一つの課題はわくわくの子どもたちの場所をどけて、そこで寺子屋をやるというところで。子どもが急激に増えていきますので、場所と子どもたちの人数っていうところが今後の課題かなって思ってるところでございます。

小倉小学校 藤川 恵 教頭

毎年、子どもたちが 100 人ずつぐらい増えてくるような学校です。わくわくの子どもたちも寺子屋を利用すると思うんですけども、本当に子どもたちが生き生きと活動できるように、もう少し教室があるといいなっていうのは本当に思っています。今度 12 月に初めて学習のスタートが切れますので、そこで 2 年生の子どもたちを対象にやっていますが、九九などの学習を通して地域の方にお世話になって勉強を頑張してほしいと思います。これからまた 1 月、2 月と活動が進むにつれて子どもたちが増えてくるかもしれないなという期待でいっぱいです。

市長

ありがとうございます。本当にコロナ禍でどういうふうやっていくかというのは、もう皆さん共通の難しさがあって、小倉小は人数が増えてるので、場所をどう確保していくのかは切実な課題だと思います。今月から学習支援が始まるということですから、学習支援のほうイベント系よりもコロナ対策という意味で

はまだ安心なのかなという気がしますけど。ぜひコロナ禍でもどうやってつながりを求めていっていかけていうのは、学校だけじゃなくみんなを抱えている課題なので、そこを何とかクリアできるようなやり方でぜひ頑張ってくださいなと思っております。

### 南大師中学校 寺子屋

今、南大師中学校で開講している寺子屋みなみかぜは、登録人数が 37 名います。当初は 34 人ぐらいでしたが、ちょっとお友達同士で誘い合って先週初めて来たという生徒さんもいて、今現在 37 名です。お話を頂いたのが 4 月の末で、6 月 1 日には開講、あっという間に開講しまして、毎週水曜日に学習支援をしております。元々 34 名だったので、私個人的には初めは物珍しさもあるし、登録が多いけど、だんだん先細りになっていくのかなと思ってはいたんですが、現在は平均的に 20 名は必ず来てます。雨だったりいろいろあっても、最低でも 20 名は来ます。



寺子屋コーディネーター 菊池 みさ子 さん

寺子屋コーディネーター 浅沼 得徳 さん

今思うと望月校長からの、「浅沼さんもう定年終えて 2 年非常勤でやってくれたけど、引退して何やるの」なんていうようなお話が立ち上げのきっかけでした。いろいろやりたいことあるんですけど、「週に 1 回ぐらい暇な日ないかな」なんて言われて、それでちょっと寺子屋のことを昨年このフォーラムで聞きまして、校長から「どうかな、来年から」なんて言われて、ちょっとその気にはなっていたんですけども。

実際、私も引退して、どうやって立ち上げればいいのかなんていうことで、まずやはりこちらの大人の組織ですよ。地域教育会議っていうのがありますので、地域教育会議のほうから実行委員長さん出していただいて、それから PTA さんもスタッフに入るっていうことで PTA 会長。あと隣にいらっしゃる菊池さんがやったださるっていうので、まず 4 人でって感じで。じゃあ次は寺子屋先生どうするかと言ったら、校長さんも教育実習生とか、中学は自然教室なんかがあるとスタッフが付きますよね。そういうところから声掛けて、全部卒業生ですね。今のところ 6 人。それで社会人から大学生、高校生も入ってきて、そうするとやっぱり自分の母校っていうことで、本当に気を使ってやってくれたかなって思います。それが立ち上げ。

じゃあ立ち上げてどうするかって、もうとにかく今年はやってみようってことで、来られる子は登録してっていう感じで。今、最終的には 37 名になりましたけど。初めは実は、本当にこんな来るの?なんて思っていて、5 人 6 人、10 人ぐらい来てくれればいいんじゃないかななんて思ってたんですけど、ふた開けてみたら、たくさん登録していただいて。それにもいろいろ市の担当の方からも聞いて、やっぱりイメージがないと分かんないので、初めに配る案内のちらしに、他の学校がどんなことやってるのか写真をちょっと入れて、あとは何かクエスチョン。「寺子屋ではどんなことをするんですか」みたいなクエスチョン方式にして、週 1 回で誰でもいいですよっていうことでだんだんやって。

例えば「塾の宿題やっていいんですか」「かかってきなさい」っていう感じで、いろいろ。あとは部活後ちょっと疲れてるけど、オアシスの川柳もありましたけど、「毎週出れないけどいいですか」「いいんじゃない」っていうことで参加を頼んできました。ということで後はざっくばらんな感じで、今のところは友達同士で何かテスト前の勉強してるとか。質問があればどんどんしてくださいっていうことで、私も勉強になりました。英語の教師なんですけど、数学もこんな難しいことやってるのかとか、理科、面白いなっていうことであるとか。

### 03 今年度開講した寺子屋から、開講までの流れ、苦労話、やりがいを聞く

**市長**      ありがとうございます。今御紹介いただいたように、浅沼先生は南大師中の英語の先生でいらしたということもあって。ちょっと小学校と中学校の寺子屋って色合いが少し違って、より学習支援のところへの重さがどうしても必要なものですから、そういう意味では先ほど入選した中学生の方もいらっしゃいましたけど、あの中学生は南大師中で今も寺子屋に通ってるので、まさにオアシスだというふうになっている感じですよ。今御紹介あったように、南大師中出身の社会人、大学生、高専、高校生、こういう人たちが自分の母校で寺子屋先生をやっていると。入り口はさまざまで、ボランティアで寺子屋先生養成講座に応募して、南大師中で始まるっていうので登録された方もいれば、先ほど御紹介あったように、実習に来た生徒さんたちが入ってくれたと、校長先生がやってくれたっていう話もあって。非常に多彩な寺子屋先生陣という形になっていますね。教育長も御覧になって、いかがですか。

**教育長**      私も10月ぐらいですか、秋に見学させていただいて大変感銘を受けました。先ほどパネルも見せていただいて、やっぱりいろんな工夫をされてて。

中学校ならではの、入試に向けての面接練習なんかも行うっていうこととか、あと欠席連絡はメールでやってるって。必ず欠席連絡は取るんですよね。あともすごく思い切ったなと思うのが、中学校に限らず、学校のあり方ってすごく変わってきてますが、かつてだと夜でも学校に用事があって来るんだったら、制服を着て歩いてというのが当然だったんですが、南大師は自転車で寺子屋に来るのを認めてるんですね。保護者の了解の下だと思えますけど。もちろん服装は私服ですよ。だからそういったちょっとしたところっていうのは、子どもたちにとってのハードルがすごく下がってるのかなと思います。あと、やっぱり学習中心になる部分があるので、必ず全ての子どもにまず自分の目標を立てさせています。目標を明確にして、こういうことができるようになりたい、こういうことを頑張るっていうのを立ててやっていくと。そういったところのちょっとした工夫っていうのが、やはり子どもたちのニーズにすごく合っているのかなと思いました。

**市長**      ありがとうございます。僕もそう思いましたね。自転車でいいよっていう校長先生の判断とか、ああいう柔軟なところがむしろありがたいというか。ちょっとした工夫というのが、とても大切かなと思いました。ありがとうございます。素晴らしい何かモデルになるような取組だなと思うと同時に、やっぱり各区によっても違うし、各学校によっても求められているものっていうのはちょっとずつ違うので、やはり地域ごと学校ごとの中学校なり小学校なりの寺子屋のつくり方っていうのが大事なんじゃないかなっていうことを、南大師中を見せていただいて大変感じました。

#### 小杉小学校 寺子屋

小杉小学校は4年前に開校したばかりの新しい小学校なんですけれども、開校した初年度からコロナ禍ということになってしまって、子どもたちが先生や自分の親以外の地域の方とか他の大人と接する機会がシャットアウトされてしまっていたんですね。その成長の過程で一番大事な、人との関わりをシャットアウトされたまま高学年になるということをものすごく懸念しておりまして、何かいい手段はないかと思って、たまたま目を付けたのがこの寺子屋さんだったんですけれども。



寺子屋コーディネーター 中村 愛さん

私自身が1月に養成講座に行かせていただいて、寺子屋のことを学んで、その時に知り合ったシニアの方たちが、「小杉小で寺子屋立ちを上げるんなら、私たち手伝うよ」みたいにおっしゃってくださって、その方たちにずっと待っていただきながら開講準備に取り掛かったんですけれども。さすがに私1人ではちょっと不安だったので、今、木村さんはボランティアですごく学校にいろいろ尽力してくださってる方なんですけれども、お声掛けをして、じゃあ一緒にコーディネーターをやろうということで、今年の9月から開講をしております。

やっぱり小杉小も今、年々低学年がものすごい人数入ってきてるんですけど、最初は1~2年生を対象に寺子屋を開講しようと思ったんですが、今コロナなので、学校長に相談したところ、人数があふれちゃって、それこそまた密になっちゃってということを懸念されていたので。じゃあとりあえず2年生だけを対象にしてやってみようということで、現在36名が登録をしております、それもいっぺんに来ると密になるっておっしゃったので、じゃあ2個に分けよう。2グループに分けて隔週で参加をしてもらってます。

寺子屋先生については、私も当初、保護者とかに手紙を配ったんですけれども、結局、寺子屋をやる時間帯は自分の子どもたちが家に帰ってくる時間帯だからお手伝いできないという方が多くて。じゃあ小杉小の保護者にはあまり頼れないので、町会とかに声を掛けて、今、先生の登録が全部で14人ですね。そのうちの4名は小杉小の役員とかボランティアさんなんですけれども、あとの10名は本当に地域のシニアがお手伝いをしてきている状況です。

9月に開講して、毎週水曜日の放課後、1時間ほど実施しています。前半は学習の時間にして、後半はその都度かるたをやったりですとか、絵本の読み聞かせをしたりですとか、そういった時間になっています。思ったよりも、シニアの方の御協力が多かったもので、寺子屋先生の数が十分に来てくださいようになったので、児童3~4人に対して1人先生がついて、落ち着いた環境でテーブルに座って学習を見てあげられるという環境ができているのがとてもいいなと思います。

音読なんかを、子どもたちは頑張ってるんですけども、一人一人やっぱり性格が違いまして、「ちょっとみんなの前では嫌」とか言う子がいるんですが、寺子屋先生の計らいで「じゃあ、教室の端っこでやろっか」とか言って、一人一人結構丁寧に大事に見てあげられる環境があるのがすごくいいなと思います。地域柄、共働きの世帯、家庭が結構多かったですもので、家庭に戻っても1人でお留守番しているような子どもたちもいるような環境だと思いますので、こういった場はとってもいいかなと思います。

今はあえて2年生だけで、まだ初年度ですので、来年度以降はまた広げていく可能性もありますけれども、小さく始めようということで、開始いたしました。



寺子屋コーディネーター 木村 優子 さん

市長

9月から始まったばかりですから、今からだんだん浸透していくと。先ほどからお話あったようないろんな巻き込み方というのがヒントになったんじゃないかなと思いますので、ぜひ期待しておりますので、よろしく願いいたします。

## 04 寺子屋について興味をもっている地域の方や学校関係者に話を聞く

### 寺子屋についての疑問点・感想



御幸小学校 滝口 太志 校長

実は昨年もこちらのフォーラムには参加をさせていただいて、御幸小学校に来る前に大島小で教頭をやったことがあります。大島小の寺子屋はかなり盛り上がってる感じで、放課後の学習支援だけじゃなくて、月に何回か臨港中学校区で集まって楽しい体験活動なんかをして、御幸でもぜひと思っていました。こういう状況でなかなか地域の方とお話しする機会がなかったので残念と思ってたんですが、実は今日、畑さんが来るというのを伺って、ぜひ巻き込みたくて参加しました。場所はあります、ノウハウもだいぶあるんですけども、あとは人材の確保だと思ってたんで、非常に期待しております。今年度、実は御幸中学校区で学校運営協議会もスタートしま

したので、そちらの方々も巻き込めるんじゃないのかななんて思って、今日は参加しました。

**市長** ありがとうございます。校長先生がやる気であると非常にうれしい話なんですけども、順番的に畑さんにすごいプレッシャーがかかっちゃったんじゃないかと思えますけど、いかがですか。

畑 伸幸 さん

私がなぜここにいるかというのは、まず幸区の PTA 協議会で一緒だった斎藤さんに誘われて来てます。もちろん興味がないわけではないです。一緒にやっていた斎藤さんをはじめ何人かがもうコーディネーターをやられてるんで、自分もやってみたいとは思ってます。いかんせん、まだ現役で働いてるもんですから、なかなか時間が取れないのですが、稲村さんと、何人かで協力すればできるのかなということで、今日一緒に参加させていただきました。相談しながら進めたいと思いますので、よろしくお願いします。

**市長** 今までのコメントを聞いて思うんですけども、何人か核になる人たちがいれば、そこから少し広がりが出てくるっていうのは過去の事例とかでも、皆さんうなずいておられますけど。最初のちょっとした核があれば広がりが出てくるので、ある意味このフォーラムも、困ったことがあれば大体おんなじ形で困ったことをクリアしているの、いろんなノウハウを共有して自分たちにどれが合うかなっていうのを探していただいて実現していくことになるので。何となくこのフォーラムに来たら、みんなで絶対やらなくちゃいけないだっというプレッシャーには感じてもらいたくないんですけど。ぜひいろんな方に御相談していただければありがたいなと思っております。でも何よりも、校長先生がそういうふうにと何とかやりたいなと思っておられるということは非常に地域にとってはうれしいことだし、大きな味方になるなと思います。

下平間小学校を卒業している須磨といいます。私の子どもも下平間小学校と塚越中学校を出ています。その中で、今はもうサラリーマンはやってないんですけども、いろんな地域を見たり、それからいろんな人とつながって、最終的には地元へ何か還元したいっていう気持ちはあったんですね。東日本大震災が起きてから福島県南相馬市とつながって、その理学博士を紹介したら、教育委員会事務局の方にすごく御理解いただいて、その理学博士が2016年から、先月は宮崎小学校の寺子屋で活動していただいているんですね。そのコーディネートみたいなのを私はしてます。その中で、寺子屋って何なんだろうなっていうのをずっと思っていたのと、それから自分がもし寺子屋をやるとしたら、例えば幸区に住んでいるこの2人が仲間なんですけれども、オカリナ奏者ですとか、それからバン

グラデシュから川崎の幸区に住んで、母国に学校を建てたというマスドさんっていう方とつながったんですね。実はその南相馬の理学博士と一緒に、年末年始バングラデシュに行って、建てた学校で寺子屋みたいなことをやりに行くんです。

要はどういうことかっていうと、私が考えているのは、中国の残留孤児の方もいますし、そういう人の人生を伝えながら自分がそれを感じて、自分が何を感じて何を学ばばいいのかっていう、そういう生きる力や考える力っていうのを寺子屋で与えられたらな、そういう機会を与えられたらいいなっていうふうにちょっと考えて。実は寺子屋を2022年まで6年続けてやってますけれど、幸区だけやってないんですね。教育委員会事務局の佐藤指導主事に「なんで幸区だけできないんでしょうかね」って言ったら、「須磨さんがやればいいじゃない」って言われたんです。うまい誘い方ですよ。それで今しきりに考え始めて、人のつながりは広く持ってますので、こういう人材も含めながら寺子屋、そういうことをしようかなっていうふうにちょっと考えてます。



須磨 修一 さん

市長

ありがとうございます。そうなんですか、いろんなことをつなげていただいてありがたいですね。先ほど教育長から、寺子屋はいつもの学校生活とはちょっと違った形で提供できるっていうのが、また意味を成すんだと。生きる力というようなことをどういうふうに学ばせるかっていうのは学校教育の中でも、カリキュラムの中でもやるけども、寺子屋とかそういったところでも生きる力っていうのを育むことができる。そういう一つのツールとして寺子屋なのかなって思うので、ぜひ期待しておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

せっかくですから、マスドさん、中村さん、コメント頂いてもよろしいですか。

モラ エムディ マスド さん

私はバングラデシュからまいりましたマスドです。私、幸区で須磨さんと知り合って、親子科学教室みたいなものに来て、それで一緒に。私、子ども好きですから、子どもに対して、私の国で日本みたいなことはないですから、私もそれを学んで、バングラデシュの子どもたちに教えたいと思って一緒に参加させていただいています。あと寺子屋でも何回も参加したんですけど、子どもたちがいろんな話をしたり楽しく勉強できるから、勉強が嫌いな子どもも好きになる、そういう場だと思えます。それで須磨さんをお願いして、私の国に何かできないかなと言って。バングラデシュは記憶力がすごく低いんですけど、日本のそういう仲間と、そういう活動をして、日本の力でバングラデシュの子どもたちの記憶力がもっと高くなるかなと思っていて、一緒に勉強しています。

中村 純子 さん

私はオカリナ奏者じゃないです。オカリナ吹きです。オカリナが大好きなおばさんです。自分の大好きなことを叫んでると、いろんな人たちが私の周りに集まってくれます。それがとても楽しいです。多分、そういうのってみんなさうだと思えます。自分の好きなものを見つけて、それでみんなとわいわいする。お勉強教えらんないしどうしようとか思ったんですけど、自分の好きなことでみんなが生き生きすればいいな、それのお手伝いができたらそれがいいなと思っています。今日はお話聞かせていただいて、ありがとうございます。

## 04 寺子屋について興味をもっている地域の方や学校関係者に話を聞く

**市長**      ありがとうございます。寺子屋への期待みたいなことも、一言いいですか。

**中村**      前向きに一生懸命っていうのが、お勉強にしても、それから子どもたちに前向きに生きてる大人の姿を見せるっていうのもかっこいいかなと思うので、そんなふうに思いました。

**須磨**      すいません、あと一言。私のこの仲間は、みんな違ってみんないいという、そういう信念を持っています。皆さんも持つてるかと思いますが、それが子どもに伝えられたらいいのかなっていうのと、それから、バングラデシュの話がされましたけど、義務教育、小学校 5 年までなんです。なので、彼は自分の国の教育を何とかしたいっていう、そういう情熱を持っているんで、いろいろと助けたいと、協力したいと思っています。

大師小学校 吉田 勝 教頭

今日は校長が他のイベントに参加しているため、代わりに参加させていただきました。東小倉小学校はもう 8 年目ということで、笑顔で帰るために、公平に接する、褒める、面白いというようなモットーでずっと続けられているような話を聞きまして、本校もどうなのかなということをいろいろ考えさせていただきました。それから、南大師中学校区になりますので、こちらにいる菊池さんにもぜひと思ってたんですけども、もう既に南大師中のほうに関わっているということですので、あまり負担は掛けられないなど。ただ、いろんな先ほどの人材ではないですけども、協力いただきながら、寺子屋の仲間入りができるように、今後のことを考えていきたいと思っています。学校に持ち帰って、学校長とも相談をしたいと思います。ありがとうございます。



住吉中学校 小松 英光 校長

本校は今、開講に向けて準備をしているところなんですけど、実は私の一存で開講を進めている面がございます。教育委員会事務局と御相談いたしまして、前任の校長先生がやはり強い思いで本校に寺子屋をという思いがありましたので、昨年それを引き継ぎまして、コロナ禍ではありますけれども、開講に向けて今準備をしているところです。

学校の立場で寺子屋っていうものを考えてみると、子どもたちの学習支援に放課後等の時間を使って十分に取り組んでいきたいと、みんななどの教員も考えております。日頃の授業だけでは十分ではないかもしれないという課題はみんなが感じています。今、ノ一部活

動デーということで、月に 1 日は本校も部活のない日をつくっているのですが、昨年まではそこに会議が入ってしまったりしてたんですけども、今年度からは会議を入れずに学習支援に充てましょうということで、部活がない日には学習支援を現場でもしています。

そこに、地域の方のお力が加わればよりいいんじゃないかというところで、学校主体で今、寺子屋に取り組みたいなど考えております。現 PTA 会長さまが、今年度をもって本校の PTA 会長を引退されるんですけども、その後もぜひ PTA 会長を引退されたということで終わりではなくて、引き続き学校のことをよく分かってる方なので、皆さまと同じように寺子屋の御担当として残っていただけないかということで、とても学校愛、地域愛のある方で本校の卒業生でもありますので、お力もお借りできるようなお話になっています。

今後 PTA の方たちは引退した後もぜひこの寺子屋に何らかの形で残っていただけないかというような、そんな流れで学校としては、ちょっと半ば強引なんですけど、そこに地域教育会議も少しこのコロナ禍で停滞してる面がありましたので、ぜひ中学校を主体に寺子屋やりますので、地域教育会議のお力もお借りできないかということでお願いをしているところです。地域教育会議としても快く受け取ってくださいますと、もう一度地域教育会議を立て直す

意味でもこれを一つの支えにしたいというお言葉を頂いております。

小学校も本校には3校来る学校がございます。全部で4校なんですけど、1校は今、寺子屋をやっておりますので、残りの3校はまだ寺子屋事業をしておりませんが、まず中学校で皮切りにやってみまして、中学はあまり体験活動って聞かないんですけども、ぜひ年に何回か体験活動でもできれば、そこで小学校の児童と一緒にしながら、中学生が小学生の面倒を見るとか、逆に小学生の新しい発想を中学生が頂くとか、そのようなことができればありがたいなと思っております。

部活動のほうも、今、活動を見直しているところですけども、部活動は決して悪ではありませんので、この活動を大切にしながらもより一層、時間をうまく節約しながら他の活動にも向けられるようにしていければなと考えております。

**市長** どうもありがとうございました。本当に一つとしておなじ寺子屋ってないので、それぞれの、正しいとか正しくないとかこれにはないと思うんですけど、ですから、その学校に応じた、地域に応じたやり方っていうのをぜひ模索していただければと思っています。

御幸中学校 石塚 全 校長

本校は1947年、昭和22年に開校した新制学校なんです。76年目になります。本当に地域の方にお世話になっている学校だということが分かります。2月に新規開講をいたします。学習支援と体験活動を3月に入れておりますので、ここで新規ということで、皆さまに頂いたアイデアを持ちながら開講を進めてまいりたいと思います。

どうも本日はありがとうございます。本校はまだ具体的に開講に向けて何か動きをしてるってことではないんですけど、私、この4月に赴任をいたしまして、まだ十分に地域のことは分かってはいないんですけども、あいさつがすごくよくできる、それからごみが全く地域にないってことで、すごく子どもたちの情操を育てるという意味でも力を持った地域だなと思っています。子どもたちが、ここ3年間行われていない夏祭りあるいはフェスティバル等を復活させたいという思いを、ついこの間聞いたばかりです。そういう地域に眠っている教育力を何とか生かす形でこの寺子屋が使えたらいいかななんて思って、今日は参考にさせていただきました。先ほど、市長もおっしゃってましたけども、核になる方、これがやはりすごくポイントかなと思っておりますので、もっと地域を良くして、その核になっていただける方を見つけていきたいなって思っております。



古川小学校 田中 仁浩 校長

**市長** 古川小学校は校庭開放プロジェクトのところでもモデル校になっていて、そこで現れた人材っていうのが、幸高校の学生さんたちがこのプロジェクトにもものすごく関わっていただいて。まさか地域の高校生にこういう形で協力していただけるっていうのは、私は全く想定外だったんです。そういう意味で、地域にはこういう若い人たち、思いを持ってくださる人たち、自分たちがあんまり関わってなかったところにもたくさんいるんだなという気づきを頂きました。

## 05 寺子屋の未来へ

### ■ 高校生目線での寺子屋へのイメージ / 川崎市立川崎高等学校2年生



川崎高校 2年生 樋口 悠斗 さん

川崎高校では毎週ゼミの時間があって、そこで自分たちのテーマについて活動していく時間があるんですけど。その時間で僕たちは子どもの居場所をつくることをテーマにして、それで「かわさき 10 年戦略」っていうのを見ていた中で寺子屋を見つけました。僕たちの学校は中高一貫校なので、これを使わない手はないと思って、この寺子屋を軸にして活動していこうと思いました。

最初は中高一貫校を生かして中学校で寺子屋をしようと思って、中学校の寺子屋も幾つか見学させてもらって、自習しててそこに先生が教えてくれるみたいな感じで進めてると思うんですけど、僕たちが考えてるのは授業形式でやろうって思ってた。やっぱり楽しくない

と来てくれないじゃないですか、そういうのって。それで高校の学習って、中学と比べるとより深く学習するので、誰が聞いても面白い、生活に関わってくる面白い部分が結構あって、それを伝えるのに最適な方法は授業形式なのかなって思って、授業で寺子屋を進めようって考えています。

### 川崎高校 2年生 前田 衣緒里 さん

今日の話聞いて、何かいい意味で寺子屋がこうあるべきだっていう固定概念がなくて、それぞれの形で、例えば私たちの高校では授業形式っていう形を取らせていただきましたし、いい意味で可能性がすごくある寺子屋事業だなと思っていて、柔軟だからこそ、いろんなニーズに合った活動ができますし、本当に世界に行くような、世界に飛び立って行くような事業なんじゃないかなって、わくわくするようなお話でした。ありがとうございました。

市長 ありがとうございます。小杉小とは何か絡みがあるんですか。

前田 そうです。1月14日に初めて特別に私たちが企画した内容を1回だけやらせていただくことになりました。

市長 何で小杉小とつながったんですか。

樋口 寺子屋をやらせていただくっていう時に、やっぱり市の方との協力が必要になって、市の方とお話しさせていただく中で「小学校で開きたいんですけど」みたいな感じで言ったら、ぼんと行けたみたいな。そういう感じですね。

市長 やっぱりあれですね、意志あるところに何かつながるっていうのはありますね。高校生の樋口さんの発言聞いてびっくりしましたけど、川崎の行政計画の総合計画読んで、その中から寺子屋を引っ張ってきたっていう。何て言うんでしょう、模範的な市民と言っていいのかどうか分かりませんが、すごいなってびっくりしました。高校生が総合計画読んでたんだって、びっくりしましたけど。でもそこから子どもたちの居場所、自分たちより後輩のことを少し思ってくれたっていうところにとてもうれしさを感じますし、こういう学生が川崎から育ってるんだと思うとうれしいですね。教育長、いかがでしょうか。

教育長 先ほど市長が幸高校の生徒も古川小で頑張ってくれてると言いましたけど、川崎の高校生、今本当に頑張ってくれてまして。総合的な探究の学習っていうのが新しい指導要領で始まっていて、地域とのつながりとかあるいは自分の今の学びが地域や、世の中の未来にどう関わっているのか、そのためにいろいろな課題を自分たちで見つけて、地域に出て地域のことを研究しながらやっていくっていう学習をどの学校でもやるんです。そういった流れの中で非常に頑張っていて、そういう学習を川崎高校はもっと前からやっていたっていう流れだと思うんですが。

実は今日、高校生が来るっていう話を聞いて、そういえば橘（たちばな）高校も、校長先生が高校生の中での寺子屋って可能性を追求したいって話をしたものですから、実は金曜日に電話して「その思いは変わりませんか」って聞いたら、変わらないどころか夢は膨らんでいると。今日こういう会があるので、「ぜひそのことを話してもいいか」って言ったら、いいよってということで紹介させていただくんですが、もう既にやはり地域の子どもたちや小学生、中学生に高校の特色を生かしてスポーツを教えたり、いろんな保育の体験をしたり、そういう活動をベースにして、高校生がやはり地域の子どもたちと何か関わりができる。そんな橘版の寺子屋ができないかなってことを考えている。「どうですか」って言ったら、今日来てくれました。

橘高校 高井 健次 校長

すいません、急に飛び入りで。橘高校の校長の高井と申します。本日はどうもありがとうございます。今日は教育長からのお話もありましたし、川崎高校の皆さんが探究的な活動で非常に積極的に活動しているっていうので、できればうちの学校もまねしたいなというところもあって、今日はちょっと勉強させてもらいに来ました。

お話を伺っているながら、冒頭のところでありましたけど、まだ残念ながら高校では寺子屋を開けていないというところがあって。ただ高校生というと実は学区が地域には限らないので、川崎市全体であったり、もっと言うと市外で湘南のほうから来てる高校生もいたりというところで、地域のつながりが少し意識としては残念ながら薄いかなというところがあるかと思うんですけども。そんなところを寺子屋を通じながら、何か地域の方とつながりながらというところ、そして高校生ですので、高校生が参加者になるのではなくて、高校生が寺子屋先生になっていくことができたらうれしいなと思っています。

先ほど、川崎高校の方が勉強を授業形式でやると言ったので、授業は難しいですよ。だけどぜひトライしていただきたいと思っていますし、本校であれば、ワールドカップで盛り上がっているように、サッカーが強かったりもしますのでサッカー教室とか。それから運動会の時に駆けっこ寺子屋みたいなことができる楽しかかなと。国際科もあるので、クリスマスシーズンにちょっと英語で遊ぼう寺子屋みたいなのができると地域とつながっていけるのかなと、ちょっと夢を描いている最中なんですね。

そしてその上で、高校生が寺子屋先生になれば、大学生になった時に、今度は学習支援で地域の寺子屋に戻ってきてくれるのではないかなというところ。それから高校生に教えてもらった小学生たちが高校生をモデルにして、ああいうすきなお兄さんお姉さんがいる高校に行きたいなと思って高校を選んでくれるかな。そんなところでちょっと見方を変えると、地域のコミュニティのプラットフォームという視点と合わせて、高校が地域の担い手を創生していくようなサイクルの基盤にもなり得るのかなと思って夢を描いていて、挑戦してみたいなと思っています。

### ■ まとめ

もうだいぶ時間を超過してしまいましたので、このあたりでお開きにさせていただきたいと思いますが、いろんなノウハウが蓄積されてきたこの8年間だというふうに思います。ぜひ新規開講のところはいいところをまねして、そして自分たちなりのアレンジを加えて、地域に合うような形でやっていくと成功していくんじゃないかなと思いますし、繰り返しになりますけども、高校生はじめ大学生だとか社会人も含めて、地域のところには探せばいろんな方たちがまだいっぱいいるというところに、そのチャンネルを私たち増やしていきたいよっていうことを、地域の子どもたちのためにやっていきたいなと思っています。

今年も有意義なフォーラムができたと思っています。ぜひこういった意識をさらに市内全域で、まだ全体としては半分ぐらいですから、1校でも多くできればいいなと思っています。今日は貴重な時間を頂きまして、本当にありがとうございました。



## アンケート集計結果 (抜粋)

### 参加者の感想

- 頑張ってこれからも続けてください。
- 多くの小学校で寺子屋をやってほしい。
- 学校外の方との交流はありがたく、うちも何度か参加させて頂いています。
- 大田区にも寺子屋があれば、子を通わせたいと思いました。
- ガンバッテください。広がるといいですね。
- もともと小学3年生からやりはじめているけど、今回のことで、また寺子屋に行ったとき、もっとよく寺子屋で宿題にとり組みたいです。
- ハロウィンがおもしろそうです。
- 聞いたことはあったが、実際の活動を伺い知る機会となりました。
- 市内にたくさんの寺子屋があることにおどろきましたし、多くの大人が協力してくれていることに、ありがたいことだと思いました。取組内容や様子がよくわかり、楽しいイベントでした。
- 写真がたくさん見れておもしろかったです！異年齢交流の雰囲気が伝わってよかった。
- 子どもにおて玉やけん玉を教えたらすごく集中していた。ゲーム機以外の物に接する機会があつて良かった。
- 地域の方々とかかわりをもてる、すてきな取り組みだと思いました。
- ストローとんぼがたのしかった。
- やってみたい寺子屋がたくさんありました！また、通っている学校の寺子屋が、今までよりもっと楽しみになりました。
- 小、中も寺子屋を取り組んでいてびっくりした。高もあるといいですね！
- 子どもと地域の人たちとのかかわりがいいなと思った。
- みんな元気そう。又あれば孫もつれて来ます。
- 市内にこんなにたくさん寺子屋があるとは知らなかったの、他の寺子屋の様子が知れて良かったです。
- 数を増やして欲しい。寺子屋の場所が少ないのと片寄っている。イイ取り組みだと思う
- あそんで学べるところがよかったですと思いました。
- 自分の参加してる寺子屋以外のようすが知れて良かったです。今後の参考になりました
- 横浜ですが、参加したい位うらやましいです。
- 折り紙を子どもと一緒にやったり楽しかったです。子どもも色々な物に取りくんでいる姿が楽しそうで良かったです。
- 学童とは違うと知りました。とてもいい取り組みだと思いました。
- 横浜市でもぜひ！！
- 市をあげて大変良い取り組みだと思いました。
- みんな楽しそうに参加している様子がわかって良かった。

